

## 【7月 文月（ふみづき・ふづき）】

七夕の月。昼間の暑さを癒す夕方の風に当たりながら、夜空を見上げる時間。蛍も飛び交う月です。後半には 蝉<sup>せみ</sup> の声も聞こえはじめます。夏休みは、「秋から春にかけて日差しを浴びることが少なかった分、夏はたくさん日差しを浴びるべきだ」という欧米の考えを日本でも取り入れたところから始まっているそうです。

### <7月の行事>

7日                      七夕

20日ごろ              海の日

下旬                      土用

# 七夕

7月7日またはその前夜に行われる行事で、中国の星の伝説に基づくものです。本来は太陰暦たいいんれきで行っていましたが、現在は太陽暦の7月7日に行く地域が多いです。東北地方などでは月遅れの8月7日に行くところもあります。中国から伝わった習慣、日本古来の伝承、盆行事の一環など、さまざまな要素が入り混じって現在に受け継がれています。織女祭しよくじょさい、星祭ほしまつりなどともいいます。

日本では織姫と彦星の七夕伝説が有名ですね。天の神様の力が宿るとされる笹竹に、飾りつけをし、短冊に願い事を書いてつるして星に祈る、ロマンあふれる行事です。



## 歴史・風習

旧暦7月の夜空には天の川を挟んで向かい合う織女星しよくじょせいと牽牛星けんぎゅうせいがひとときわ明るく輝いて見えます。この2つの星を恋人に見立てた恋物語は、すでに3,000年も前から中国の古詩に歌われ、今に至っています。

日本で七夕行事が人々にひろがったのは江戸時代以降です。江戸幕府が七夕を年中行事に定めたので、武士が行うようになり、その後寺子屋や手習いの師匠を通じて人々に広がりました。

多くの地方で笹竹ささたけを6日の夕方に飾り、7日の朝には川や海に流す地方もありますが、これは、穢けがれをものに託して流す禊みそぎであり、盆を前まへにして行われるお祓はらいであると考えられます。

7月7日を盆なまかぼんはじめとか七日盆と呼んで、この日に墓掃除をしたり、墓への道の草を刈って盆道をつくることもあります。

## 七夕伝説

天女が水浴びをしていました。すると、通りかかった若者が一人の天女の羽衣はごうもを隠してしまいました。羽衣のない天女は天に帰ることができず男の妻となります。やがて子どもが生まれ、その子どもの歌から羽衣が穀物倉こくもつぐらに隠してあることを知ることになります。それを見つけた天女は、羽衣をつけ、子どもを連れて天に飛び去ってしまいます。天女は別れるとき、瓜の種を残しました。男は種をまき、やがてつるが伸び、男はこのつるを登って天上へ行きます。快く思わない天帝から難題を命じられますが、天女の援助によって解決しました。ただ、禁じられていた瓜を縦に割ってしまい、瓜から流れた水が大洪水となり、男は流されてしまいました。この川が天の川で、天女は流されてゆく男に、7日に会おうと言いました。それを男は7月7日と聞き違い、毎年1回だけ、7月7日にしか会えないようになってしまいました。

# 土用(どよう)

1年のうち、二十四節気の四立(立夏・立秋・立冬・立春)の直前約18日間ずつを土用と言います。一般には夏の土用(立秋直前)を指すことが多いですが、実は1年に4回、季節ごとに土用はあるのです。

それぞれの土用の最初の日を土用の入りと呼びます。昔は立春から一年が始まっていたので、季節の巡りの最後の土用は節分(立春の前日)になります。



土用の起源は、古来中国から伝わる「陰陽五行思想<sup>いんやうごぎやうしそう</sup>」に由来します。陰陽五行思想とは「万物は木、火、土、金、水の5つの元素から成り立っている」という考えです。

季節においても、春に「木」、夏に「火」、秋に「金」、冬に「水」を割り当て、残った「土」を季節の変わり目に割り当てました。季節の変わり目であるこの期間は”土の気が旺(さかん)になる”期間といわれており、元々は「土旺用事<sup>どおうようじ</sup>」と呼ばれていましたが、「旺」と「事」が省略され、「土用」となったと言われています。

## 土用に食べるもの

土用と聞くと「土用の丑の日=鰻」を思い浮かべる人が多いと思いますが、「土用の食い養生」といって、夏以外にもそれぞれ季節ごとの風習があります。

- 春…「い」の付く食べ物、白い食べ物
- 夏…「う」の付く食べ物、黒い食べ物
- 秋…「た」の付く食べ物、青い食べ物
- 冬…「ひ」の付く食べ物、赤い食べ物

その他にも土用に食べると良いとされている食べ物は以下の通りです。

- 土用餅  
土用に食べるあんころ餅のこと。
- 土用しじみ  
しじみは夏と冬に旬があり、夏のしじみは産卵期を迎えて栄養価も高いため夏バテ防止に適しています。
- 土用卵  
土用の時期に産み落とされた卵。

## 土用波

夏の土用の時期、風の無い日に海岸に打ち寄せる大波をさします。

現代では日本のはるか南海上に存在する台風の影響で発生した波がうねり(高い波)となり、太平洋側の海岸に届いたものであることが分かっていますが、気象の観測体制の無かった昔には非常に恐れられていました。

土用波は通常の2~3倍の高さをもつ波が突然やってくるため、海水浴や磯遊び、防波堤で釣りを楽しんでいる人が一気に高波にさらわれることがある非常に危険な波です。

土用波の最盛期は海水浴シーズンでもあるため、海水浴地の天気だけでなく、日本の南に台風が発生していないか、気象情報を確認しましょう。